

整形外科学（リハビリテーション医学－Physical Medicine and Rehabilitation－）

I 教育の基本方針

大学院といっても、リハビリ医学は臨床医学の1分野であり、臨床医としての研修課程を修了していることを前提にします。リハビリ医学専門医試験を受けること、そのための知識とスキルを学ぶことを優先しますが、それと並行もしくはそれに続いて、科学的なものの方を見方を学び、実際に研究活動に従事して、その成果を論文発表するのが大学院の目標です。その趣旨はリハビリ医学領域におけるEBM（evidence-based medicine）への貢献であり、また本過程を通じて修得した知識・技能を専門医としてリハビリ臨床に役立て、かつリハビリスタッフの指導につなげることである。

II 年次毎の到達目標

1年次	医学に共通する基本的な知識・技能を修得する。
2年次	リハビリテーション医学に関する評価・研究技法を修得する。
3年次	計画に則って研究を実施し一定の成果を目指す。
4年次	研究成果を原著論文にする。学位取得。

III 担当教員・研究テーマ

教授	岡島 康友	臨床電気診断、動作解析、麻痺性疾患診断、脳卒中障害評価
准教授	山田 深	日常生活動作評価尺度 軌道上での効率的・効果的運動 微小重力環境下での歩行動作解析 国際生活機能分類

IV 研究指導補助教員

V 授業科目一覧

種別	科目名	単位	開講時期	標準履修年次
講義・演習	講義・演習	4	半期	1年次
実験・実習	実験・実習	8	通年	2年次又は、 1－2年次
専門分野 共通科目	課題研究	8	通年	3年次又は、 2－3年次
	研究論文演習	4	通年	3年次又は、 4年次

開講年度	2019	開講時期	半期	標準履修年次	1年次	単位	4	
科目名	講義・演習							
担当教員	岡島康友、山田 深							
曜日・時限等	春学期： 月曜日 4・5時限 (15:00-16:30・16:45-18:15) 秋学期： 月曜日 4・5時限 (15:00-16:30・16:45-18:15)							
教室等	A リハビリテーション室 B 筋電図室 C カンファレンス室							
教育の基本方針	リハビリテーション医学と関連基礎分野の専門知識と技能を広い見地に立って再構成し、問題点を見出す研究者としての基本的能力を身に付ける。							
到達目標	リハビリテーション医学の根幹をなす障害の概念と構造を理解し、関連する身体障害・高次脳機能障害を具体的に知る。また、リハビリテーション医学の課題に関連する基本的研究手法を学ぶ。							
学習内容	当該領域を概観するとともに、その領域に関連する問題、研究課題を知り、関連する論文を抄読し、その主旨を理解し、当該研究の意義について討論する。							
授業計画	回数	講義内容				会場	春学期	秋学期
	第1回	障害の構造：ICIDH、ICF				C	04/15	09/30
	第2回	麻痺の診断：末梢神経障害				B	04/22	10/07
	第3回	麻痺の診断：中枢神経障害				A	05/13	10/21
	第4回	感覚障害の診断：末梢神経障害				B	05/20	10/28
	第5回	感覚障害の診断：中枢神経障害				A	05/27	11/18
	第6回	高次脳機能の診方				C	06/03	11/25
	第7回	歩行障害の診断				A	06/10	12/02
	第8回	ADLの評価				C	06/17	12/09
	第9回	理学療法の基礎				C	06/24	12/16
	第10回	基礎運動療法				C	07/01	12/23
	第11回	特殊運動療法				C	07/08	01/06
	第12回	作業療法				C	07/22	01/20
	第13回	言語療法				C	07/29	01/27
	第14回	補装具療法				A	08/05	02/03
	第15回	機能予後判定				C	08/19	02/10
口頭試験に対しては終了後に解答の解説、プレゼンテーションには終了後に総評を行う。								
準備学習と授業外の方法	<p>予め与えられた授業計画のテーマについて事前に教科書、文献などを調べてくること。関連する重要な課題については、試金石となる文献を読み、それをプレゼンテーションできるようにすること。</p> <p>CITI Japan(e-learning)の医学研究者標準コース(15単元)を受講すること。</p>							
学習指導書 (テキスト・参考文献等)	<p>医学書院「標準リハビリテーション医学 第3版」 金原出版「現代リハビリテーション医学 第3版」 南江堂「バイオサイエンスの統計学」 大修館書店「運動神経生理学講義」 金原出版「脳卒中患者の機能評価－SIASとFIM:基礎編」 文光堂「筋電図判読テキスト」 大修館書店「運動学習とパフォーマンス」 医学書院「義肢装具のチェックポイント」</p>							
成績評価方法	口頭試問 (50%)、抄読会プレゼンテーション (50%)							
成績評価基準	21ページ「9.成績評価」又は、以下URLの「5.成績評価」を参照 http://www.kyorin-u.ac.jp/univ/graduate/medicine/aboutus/outline/							
備考	上記の日時に参加できない者は、協議の上で具体的な時間割を決定する。連絡先:リハビリテーション医学教室 (内線2931)							

開講年度	2019	開講時期	通年	標準履修年次	2年次又は、1-2年次	単位	8
科目名	実験・実習						
担当教員	研究テーマにより決定する。						
曜日・時限等	原則として、毎週水・木曜日の3・4時限（13：00-16：30） ※参加が難しい場合には各ケースで協議のうえ具体的な時間割を決定する。						
教室等	リハビリテーション室、カンファレンス室、筋電図室、病棟、外来、学外						
教育の基本方針	研究テーマに関連するリハビリテーション医学の専門知識を深め、その領域に特異な技能を身につけ、自ら研究を遂行できるようにする。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 通常の診察による障害評価に関する課題：関連する機能や活動の定量的な評価・診察法を習得する。 2. 機器を用いた障害評価に関連する課題：関連する動作解析、電気生理学的検査等の評価技術を習得する。 3. リハビリテーション介入効果に関連する課題：先行研究報告から介入内容を吟味し、効果判定のための評価の妥当性を検討する。 4. フィールドワーク：実験あるいは調査対象が学外の場合には予備実験・調査を行う。 5. 課題に関する研究計画案を作成する。 6. 研究計画書をもとに倫理委員会へ研究申請を行う。 						
学習内容	研究課題に関する先行研究を調査した上で、関連する診察、調査、実験手法を身につける。そして、課題研究の実施へ向けて、実際の研究計画案を作成する。						
授業計画	第 1- 10回 先行研究について調査 第11- 50回 研究の基本的な方法・手技の習得 第51- 80回 実験シミュレーション、フィールド予備調査 第81- 95回 実験・調査計画立案、 第96-120回 倫理委員会申請、申請書の修正作業 口頭試験に対しては終了後に解答の解説、実地試験には終了後にコメントを返す。						
準備学習と授業外の学習方法	研究課題に係る参考書および与えられた学術文献を読むこと。また、関連する参考書、論文から疑問点を抽出すること。						
学習指導書 (テキスト・参考文献等)	医学書院「標準リハビリテーション医学 第3版」 金原出版「現代リハビリテーション医学 第4版」 南江堂「バイオサイエンスの統計学」 大修館書店「運動神経生理学講義」 金原出版「脳卒中患者の機能評価－SIASとFIM:基礎編」 文光堂「筋電図判読テキスト」 大修館書店「運動学習とパフォーマンス」 医学書院「義肢装具のチェックポイント」						
成績評価方法	実地試験あるいは研究課題内容によっては口頭試問（100%）						
成績評価基準	21ページ「9.成績評価」又は、以下URLの「5.成績評価」を参照 http://www.kyorin-u.ac.jp/univ/graduate/medicine/aboutus/outline/						
備考	上記の日時に参加できない者は、協議の上で別な時間割に変更する。 連絡先:リハビリテーション医学教室（内線2931）						

開講年度	2019	開講時期	通年	標準履修年次	3年次又は、2-3年次	単位	8
科目名	課題研究						
担当教員	研究テーマにより決定する。						
曜日・時限等	履修者の研究内容によって個別に指導を行う。 ※参加が難しい場合には各ケースで協議のうえ具体的な時間割を決定する。						
教室等	研究テーマによりリハビリテーション室、筋電図室、病棟、外来、学外						
教育の基本方針	研究テーマに関する実験・調査を反映させた研究計画を立てて、実際に研究を行い、その結果をまとめ、論旨をもって発表することを学ぶ。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自らが研究計画を立て、それにそって研究を実行できる。 2. 毎回の実験内容を正しく記載し記録できる。 3. 結果の統計処理が正しくできる。 4. 結果を科学的に解釈し、文献的考察を加えることができる。 5. 学会や研究会で研究報告として発表できる。 						
学習内容	課題に対する研究計画を確定し、そのための実験手技の習得、必要に応じてフィールドワークを行う。研究を遂行して得たデータを適切に統計解析して、その結果について議論する。						
授業計画	第 1- 10回 先行研究について調査 第11- 30回 研究方法の検討 第31- 80回 実験・フィールドワークの実行 第81- 95回 データの統計解析、結果の整理、追加実験の検討 第96-120回 結果の学会発表準備 研究成果のプレゼンテーションには総評で、レポートにはコメントを付してフィードバックする。						
準備学習と授業外の学習方法	研究に関係して、指導あるいは指摘を受けた点について、自身で実験・調査を行い、解決すること。さらに、疑問点を抽出、整理すること。関連する最新の文献を自ら見出し、自身の研究の深化に応用する。						
学習指導書 (テキスト・参考文献等)	医学書院「標準リハビリテーション医学 第3版」 金原出版「現代リハビリテーション医学 第4版」 南江堂「バイオサイエンスの統計学」 大修館書店「運動神経生理学講義」 金原出版「脳卒中患者の機能評価－SIASとFIM:基礎編」 文光堂「筋電図判読テキスト」 大修館書店「運動学習とパフォーマンス」 医学書院「義肢装具のチェックポイント」						
成績評価方法	研究成果の発表 (100%)						
成績評価基準	21ページ「9.成績評価」又は、以下URLの「5.成績評価」を参照 http://www.kyorin-u.ac.jp/univ/graduate/medicine/aboutus/outline/						
備考	連絡先:リハビリテーション医学教室 (内線2931)						

開講年度	2019	開講時期	通年	標準履修年次	3年次又は、4年次	単位	4
科目名	研究論文演習						
担当教員	研究テーマにより決定する。						
曜日・時限等	履修者の研究内容によって個別に指導を行う。 ※各ケースで協議のうえ具体的な時間割を決定する。						
教室等	リハビリテーション室、カンファレンス室、筋電図室、病棟、外来、学外						
教育の基本方針	学術論文の構成、論理展開を含め、書き方を修得し、また批判に対して適切に応じることを学ぶ。						
到達目標	1. 研究成果の学会発表を通して得た課題に答え、文章化する。 2. 研究の成果を原著論文とする。 3. 学術雑誌に原著論文を投稿する。また、査読結果に適切に対応する。 4. 博士論文の発表の準備を行う。						
学習内容	発表した研究成果から論文にすべき内容を選別し、研究目的にそった内容の論理展開を行う。以上を原著論文としてまとめ、学術雑誌へ投稿する。査読で批判された点について検討を加え、論文として完成し、公表する。						
授業計画	第 1- 5回 論文用データの選別 第 6-10回 論文の構成の検討 第11-15回 引用文献の精選と議論の組み立て 第16-20回 論文執筆 第21-25回 論文投稿 第26-30回 論文査読結果への対応 論文作成/投稿の全過程でその都度、コメントを付記して返却、修正を指導し、また査読者とのコミュニケーションにもコメント付記する。						
準備学習と授業外の学習方法	論文作成に関して指導あるいは指摘を受けた点について、自ら調べて、修正すること。さらに、論文についての問題点を抽出、整理すること。						
学習指導書 (テキスト・参考文献等)	医学書院「標準リハビリテーション医学 第3版」 金原出版「現代リハビリテーション医学 第3版」 南江堂「バイオサイエンスの統計学」 大修館書店「運動神経生理学講義」 金原出版「脳卒中患者の機能評価－SIASとFIM:基礎編」 文光堂「筋電図判読テキスト」 大修館書店「運動学習とパフォーマンス」 医学書院「義肢装具のチェックポイント」						
成績評価方法	論文の作成と学術雑誌掲載 (100%)						
成績評価基準	21ページ「9.成績評価」又は、以下URLの「5.成績評価」を参照 http://www.kyorin-u.ac.jp/univ/graduate/medicine/aboutus/outline/						
備考	論文は学術雑誌へ投稿するまでを最低限の目標とする。 連絡先:リハビリテーション医学教室 (内線2931)						